※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１７

令和８年度　福祉科

教科	福祉	科目	地域福祉Ⅱ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

○これから地域社会で生活されている人々の「ふだんのくらしのしあわせ」について、みなさんと一緒に考えていきましょう。
・社会で起こっている福祉に関する諸問題について、新聞記事、テレビニュース、ｗｅｂ等から興味や関心の幅を広げましょう。
・卒業後、福祉・介護・医療・保育分野に進みたい人にとって必要とする基礎的な社会福祉に関する知識や技術を学ぶとともに「福祉の心」を育みます。
・夏季休業期間中等を活用して自分の興味や関心のある福祉分野（児童・障がい・高齢者など）についてボランティア実習に参加します。

2　学習の到達目標

福祉の見方・考えを働かせ、地域交流活動を通し、対人援助や福祉実践の場での人間関係の構築、インクルーシブな地域づくりに必要な資質・能力を育成することを目標とする。
（１）視覚障がい、聴覚障がい等の知識を理解し、点字・ガイドヘルプ・手話の応用的技術を身につける。
（２）対人援助においてコミュニケーションに関する諸課題を発見し、根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。
（３）インクルーシブ等、地域福祉の構築をめざして自ら学び、適切な対人援助に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	１）地域福祉に関する基本的な知識について理解している。 ２）聴覚障がい者とのコミュニケーションについて障害特性や学習した手話について基礎的知識を理解している。	１）乳幼児への定説な個別・集団支援について考え、基本的な姿勢を身につけている。 ２）本の読み聞かせや手話や手話歌等でコミュニケーションスキルを豊かに表現することができる。	１）傾聴・受容・共感の態度を共同学習や福祉実習等に生かし、自尊感情を高めている。 ２）卒業後の進路にむけた意識づけや、インクルーシブな地域づくりの主体育成がなされている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	相手に応じたコミュニケーション	【聴覚障がいのある人とのコミュニケーション】 ・日常会話で使う手話表現 ・文化祭発表に向けた舞台発表(手話歌・劇等)準備	a. 聴覚障がいのある人の心理を理解し、適切なコミュニケーション方法を理解している。聴覚障がいのある人の個々の状況に応じた効果的なコミュニケーション方法を理解している。 b. 聴覚障がいのある人との適切なコミュニケーション方法に関する課題を発見し、解決しようとしている。聴覚障がいのある人との効果的なコミュニケーション方法に関する課題を発見し、解決しようとしている。地域福祉の当事者との交流を通して、当事者の世界について考えることができる。 ｃ．傾聴・受容・共感の態度を共同学習や福祉実習等に生かし、自尊感情を高めている。卒業後の進路にむけた意識づけや、インクルーシブな地域づくりの主体育成がなされている。	・ノート ・調査 ・研究 ・発表 ・定期考査	・調査 ・研究 ・発表 ・レポート ・定期考査	・授業 ・観察 ・調査 ・研究 ・発表 ・レポート
２学期	相手に応じたコミュニケーション	【聴覚障がいのある人とのコミュニケーション】 ・日常会話で使う手話表現 ・文化祭発表に向けた手話パフォーマンス(手話歌・劇等)準備・発表 ・手話スピーチ準備	a. 聴覚障がいのある人の心理を理解し、適切なコミュニケーション方法を理解している。聴覚障がいのある人の個々の状況に応じた効果的なコミュニケーション方法を理解している。 b. 聴覚障がいのある人との適切なコミュニケーション方法に関する課題を発見し、解決しようとしている。聴覚障がいのある人との効果的なコミュニケーション方法に関する課題を発見し、解決しようとしている。地域福祉の当事者との交流を通して、当事者の世界について考えることができる。 ｃ．傾聴・受容・共感の態度を共同学習や福祉実習等に生かし、自尊感情を高めている。卒業後の進路にむけた意識づけや、インクルーシブな地域づくりの主体育成がなされている。	・ノート ・調査 ・研究 ・発表 ・定期考査	・調査 ・研究 ・発表 ・レポート ・定期考査	・授業 ・観察 ・調査 ・研究 ・発表 ・レポート

※令和４年度以降入学生用

	地域の支援学校との共同学習	・支援学校についての理解 ・障がいの理解 ・地域の支援学校訪問・交流	a. 地域の支援学校との共同学習に関連した地域福祉に関する基本的な知識について理解している。 b. 地域福祉の当事者（支援学校）との交流を通して、当事者の世界について考えることができる。 ｃ．傾聴・受容・共感の態度を共同学習や福祉実習等に生かし、自尊感情を高めている。卒業後の進路にむけた意識づけや、インクルーシブな地域づくりの主体育成がなされている。	・ノート ・調査 ・研究 ・発表 ・定期考査	・調査 ・研究 ・発表 ・レポート ・定期考査	・授業 ・観察 ・調査 ・研究 ・発表 ・レポート
３学期	手話表現	【聴覚障がいのある人とのコミュニケーション】 ・日常会話で使う手話表現 ・手話スピーチ準備・発表	a. 聴覚障がいのある人の心理を理解し、適切なコミュニケーション方法を理解している。聴覚障がいのある人の個々の状況に応じた効果的なコミュニケーション方法を理解している。 b. 聴覚障がいのある人との適切なコミュニケーション方法に関する課題を発見し、解決しようとしている。聴覚障がいのある人との効果的なコミュニケーション方法に関する課題を発見し、解決しようとしている。 ｃ．傾聴・受容・共感の態度を共同学習や福祉実習等に生かし、自尊感情を高めている。卒業後の進路にむけた意識づけや、インクルーシブな地域づくりの主体育成がなされている。	・ノート ・調査 ・研究 ・発表 ・定期考査	・調査 ・研究 ・発表 ・レポート ・定期考査	・授業 ・観察 ・調査 ・研究 ・発表 ・レポート
	インクルーシブな地域づくりの主体育成	・インクルーシブな地域づくり ・地域福祉Ⅰ・Ⅱの授業の振り返りと卒業後の生き方・あり方について	a. インクルーシブな地域づくりに関連する地域福祉に関する基本的な知識について理解している。 b. 地域福祉の学習や地域福祉の当事者との交流を振り返り、当事者の世界を考えることができる。卒業後の生き方・あり方についてコミュニケーションスキルを用いて豊かに表現することができる。 c. 傾聴・受容・共感の態度を共同学習や福祉実習等に生かし、自尊感情を高めている。卒業後の進路にむけた意識づけや、インクルーシブな地域づくりの主体育成がなされている。	・ノート ・調査 ・研究 ・発表 ・定期考査	・調査 ・研究 ・発表 ・レポート ・定期考査	・授業 ・観察 ・調査 ・研究 ・発表 ・レポート

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度